



つながる想い、広がる可能性 ～福島高校応援シンポジウム～

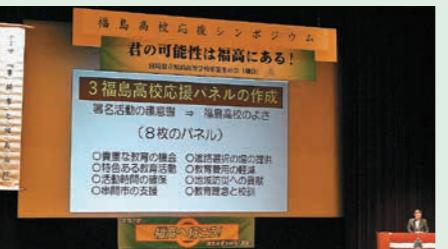
10月19日(日)、市文化会館大ホールにて「福島高校応援シンポジウム」が開催されました。地域と学校が手を取り合い、福島高校の未来を考えるこの催しには、生徒や保護者、教育関係者など多くの方々が参加し、熱気に包まれました。

シンポジウムでは、同校の水口和博校長より、個別指導、情報通信技術(ICT)教育の充実など特色ある教育活動や地域との連携の取り組みが紹介されました。生徒たちの主体的な学びの姿勢に参加者から大きな関心が寄せられました。また、卒業生の会「潮会」実行委員会による活動報告では、母校が連携する意義が改めて浮き彫りになりました。

「串間市と福島高校」のテーマでは、保護者や卒業生ら4人が意見発表。市内からの通学時間の短さによる生徒や保護者の負担の少なさなどをアピール。ポイントとして挙げました。その中で「串間の教育だけでなく経済にとっても大事



保護者や卒業生の意見発表



「潮会」の取り組み紹介



総合政策課職員 水口和博校長先生

な学校。無くなれば地域は衰退する。」などと訴えました。

「今後の福島高校の応援についての二つの提案」のテーマでは、同校3年生の牧野莉久さんと竹下公太さんが、入学者を増やすための提案を発表。市外における知名度の低さが課題と分析し、「オープンスクールを1泊2日で実施する。うち1日を生徒主体で行うことにより、学校の雰囲気をよりリアルに感じてもらう。」と主張しました。

若

い世代ならではの柔軟な発想と熱意が光り、会場からは大きな拍手が送られました。

今回のシンポジウムを通して、同校と地域のつながりがさらに深まり、未来に向けた新たな一歩が踏み出されました。



～音で描く、金賞物語。～

串間中学校吹奏楽部 第2回定期演奏会

「第70回宮崎県吹奏楽コンクール」において、8年振りに見事「金賞」を受賞した串間中学校吹奏楽部が10月11日(土)に市文化会館大ホールで定期演奏会を開催しました。会場には多くの方々が足を運び、生徒たちの熱演に耳を傾けていました。

仲間と過ごした日々、重ねた音、流した涙。その感動の全てがひとつのステージに響きました。

「アンリミテッド」、「青と夏」、「昭和アイドルコレクション」などを演奏。個々の楽器の音色が重なり合うことにより、美しく力強いハーモニーが生まれ、迫力と情熱を感じました。部員一人ひとりの表情か

らは音楽に対する真摯な思いが伝わり、心から感動しました。

今年度は、金賞受賞の喜びを胸に、さらに磨き上げた演奏で観客を魅了。クラシックからポップスまで幅広いジャンルに挑戦し、曲ごとに異なる表情を見せる生徒たちの姿に、会場からは大きな拍手が送られました。

串間中学校吹奏楽部の皆さん！これからもその美しい音色で、串間のまちに元気と笑顔を届けてくださいね♪

